

● 顕現後第一主日

泉のほとり

今月の詩編 「第五十三編」

どうかイスラエルの救いが

シオンから起こるように。

神が御自分の民、捕らわれ人を連れ帰るとき

ヤコブは喜び踊り

イスラエルは喜び祝うであろう



幼子の心を目指す

主イエスに触れていたくために、人々は乳飲みみ子まで連れてきました。弟子たちはそれを見て叱ったのです。「幼子まで連れてくるのか」「今は子供を相手にする時間などない」と叱ったのでしよう。これに対して、マルコの福音書は主イエスが親たちを叱る弟子たちを見て「憤られた」と伝えていいます。主は幼子たちを呼び寄せ、「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げではならない。子供のように神の国を受け入れる者でなければ、決して神の国に入ることはできない」と教えられました。福音が示しているのは「神の国」です。「子供のようにならなければ神の国に入ることができない」とは、福音が「人を子供のようにさせよう」としていることと言えましょう。

この話の真前には「神殿に上つて祈る二人」の例え話があります。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人。ファリサイ派の人は「私はほかの人たちではなく、この徴税人のような者でもない」と心の中で祈り、自分の善行を誇りました。一方、徴税人は遠くに立ち、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら「神様、罪人の私を憐れんでください」と祈りました。主は、義とされたのは徴税人であり、ファリサイ派の人ではないと語られ、「誰でも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」と教えられました。

義とされた徴税人は神の国に近く、ファリサイ派の人は神の国から遠い者です。特に今日の箇所では「神の国」と明言された乳飲みみ子たちは、ファリサイ派の人とは対照的な存在です。彼らは聖書も祈りも知らず、自ら何かを成し遂げることもありません。しかし、「神の国はこのような者たちのものである」と教えられています。

自惚れて祈るファリサイ派の人は、神を仰いでいるようで、主イエスとは親しい交わりを持ってそうにないのです。それに対し、弟子たちが来るのを妨げた乳飲みみ子たちは、「妨げてはならない」と憤られるほど主イエスに愛され、守られる存在でした。

幼稚園の子どもたちを見ると、彼らが守られ、その楽し

む姿が神に喜ばれていると感じます。大人は怒りや恨みを抱き、赦さないことや裁くことも多いですが、子どもたちは怒りや恨みを持つても長続きせず、また隠し事や飾り立てることもありません。この地上での主イエスの伝道の働きの中、大人たちとの付き合いは疲れが伴うものでした。反面、幼子たちを見ると、主イエスご自身、疲れも忘れたのではないかと思えます。信仰とは何でしょうか。主イエスは「子供のようになることだ」と教えています。そして「子供のように神の国を受け入れる」とは、主イエスが私たちを見て疲れを忘れるような存在になることと言ひ換えられるのではないのでしょうか。ファリサイ派のその高ぶる心には、主イエスが共に住まわれる居場所と感じられません。一方で、胸を打ちながら「罪人の私を憐れんでください」と祈る徴税人。主イエスが誰に親しみを覚えるかは明らかでしょう。

そして、その二人の話の後、このルカの福音書は幼子のようなことになることを教えています。ファリサイ派の人から徴税人へ、更に幼子へと。幼子たちは「信じます」とか言いません。立派な行いもありません。しかしそれとは比べることのできない、親への信頼が、親の存在が空気のように共にあるのを見出すのです。その子どもたちの姿から、神に造られた最初の人の姿を見出すのです。何か特別なことをしているわけでもなく、神から与えられた園で、しかも裸。何もかも隠さず、神から与えられているすべてを自由に楽しんでいて最初の人を見るのです。

人は神の子どもです。天の父は多くの幼子たちを通して、人がご自身の子どもであることを教えておられます。十字架はその姿へ立ち返るようにとの神の願いを語りかけています。

キリストは天の父を「アッパ」と呼びました。「アッパ」とは幼子が父を呼ぶときの呼び名です。キリストご自身もまた天の父に「幼子」であったことを覚えて、神の前で幼子の心にある「信仰」を願い求め、新年を迎えたこの時、しかし今年のみならず生涯、幼子のように神と共に歩む信仰に生きていきたいと心から願います。

(ルカ一八・一五〜一七 黄允滉牧師)

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○今日は、二十歳の祝福礼拝です。

○礼拝後、地下ホールで、二十歳になられた方と一緒に喜ぶ会をもちますので、皆様、どうぞご参加ください。

《運営委員会より》

本日、教会員懇談会を行います。

交わりの会の後、昼食休憩を挟んでから開始予定です。一三時開始(目途)一時間程度

・場所 地下ホール

・概要 今年四月に設置された検証委員会(山名書記、

館山役員で構成)からの報告をお聞きます。続く

一月二六日(日)の教会研修会に向けた心備えの時

としたいと思います。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《教会事務所より》

本日、一六時頃から明日(三日)の夕方にかけて、キュービクル(高圧受変電設備)の更新工事を行います。工程表をロビーに掲示しましたので、詳細はそちらを御覧ください。機材を搬入し、全館停電しての工事となります。一六時頃には駐車場の出入りが出来なくなりますので、ご注意ください。皆様、ご協力をお願いいたします。

《シオンの会より》

一月一五日(水)一〇時三〇分〜一二時シオンの会を第二第三シオンルームで行います。(オンラインも併用します。)

テキスト「聖書が教える世界とわたしたち」P214-218

下段◆救いの実現(一九)十字架の死 神と人の仲保者

主イエスから読みます。

参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《交読詩篇》

※会衆は太字を唱和します。

【詩篇五十三篇】

指揮者によつて。マハラトに合わせて。
マスクール。ダビデの詩。

神を知らぬ者は心に言う

「神などない」と。

人々は腐敗している。

忌むべき行いをする。

善を行う者はいない。

神は天から人の子らを見渡し、探される。

目覚めた人、神を求める人はいないか、と。

だれもかれも背き去つた。

皆ともに、汚れている。

善を行う者はいない。ひとりもない。

悪を行う者は知つてゐるはずではないか。

パンを食らうかのように、わたしの民を食らい

神を呼び求めることをしない者よ。

それゆえにこそ、大いに恐れるがよい

かつて、恐れたこともなかつた者よ。

あなたに対して陣を敷いた者の骨を

神はまき散らされた。

神は彼らを退けられ、あなたは彼らを辱めた。

どうか、イスラエルの救いが

シオンから起こるように。

神が御自分の民、捕われ人を連れ帰られるとき

ヤコブは喜び躍り

イスラエルは喜び祝うであろう。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「大声で讚美、感謝」

聖書 ルカ17章11〜19節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「すべての人に仕えるものに」

聖書 マルコ9章33〜37節

説教者 宮間彰広兄

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讚美歌 2番 334番

説教 「真理に属する人は」

聖書 ヨハネ18章28〜40節

説教者 黄允湜 牧師





二十歳の祝福礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 86番 502番
説教 「新しい自分を生きる」
聖書 ニコリント5章16～21節(新約 P.331)
司式 石川 一兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「たえにうるわしや」J.S.バッハ

○讃美歌86番

1. み神のめぐみは 量り知られず
ときわの愛こそ 比いもなけれ
あめなるみ神に まさりて深く
わが身の憂いを だれが憐れまれん
2. み神のみ子なる 貴きイエスは
十字架の悩みと 恥とをうけて
罪ある者には ゆるしを与え
疲れし者には 安きをたまう
3. くすしき恵みを 日に日に覚り
ちからの限りに 仕えまつらば
望みのひかりは 心に満ちて
たたえの言葉は 口にぞ溢れん

アーメン

○聖歌隊による讃美

「主のみちへ」B.J.リーチ作曲
主のみちへ 主のみちへ
共に我ら進もう
主イエスは今 待っておられる
主のみちへ 共に進もう
主の命じられるまま
どこまでも行こう
主に従い 歩もう
悲しみも 苦しきも
主イエスは みな知っておられる
共に主のみちを行こう

主イエスは今 生きておられる
主の愛と命を受けよう
主のくださるすべてを
喜び受けよう
主に従い 歩もう
力あふれ 輝き満ち
主のみちへ 主のみちへ
共に我ら進もう
主のみちへ 主のみちへ
輝く主のみちへ行こう

○讃美歌502番

1. いともかしこし イエスの恵み
つみに死にたる 身をも活かす
主よりたまわる あめの糧に
飢えしころも 飽き足らいぬ ※
※くりかえし
世にあるかぎり きみのさかえと
いつくしみとを かりつたえん
2. すくいのみめぐみ 告ぐるわれは
たのしみあふれ うたとぞなる
ほろびをいでし このよろこび
あまねくひとに えさせまほし ※
3. くすしきめぐみ あまねく満ち
あるに甲斐なき われをも召し
あまつ世嗣と なしたまえば
たれか洩るべき 主のすくいに ※

アーメン

聖餐曲「み恵み豊けき」D.ウット

後奏曲「聖なるみ神は」J.L.クルプス

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。